

II-2. 「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」事業における主な5プログラムに関する成果報告

「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」事業では、主な5つの教育研究プログラムについて共同開発・実施、普及・定着化を図った。以下、これら5つのプログラムにおける教育研究活動の成果について報告する。

参画大学の事業成果報告をもとに、実施大学別に教育研究プログラムとその概要をまとめた。事業参画大学間の連携プログラムとして実施したものには【連携】を付した。各プログラムの成果については、実施大学のホームページ等に詳細が記載されている。なお、プログラム名に(*)を付したものについては、別添の資料が提出されている。本報告書の別添資料としてまとめているので、参照いただきたい。

1. 高度医療人キャリア形成教育研究推進プログラム

本プログラムでは、医療人としての高い倫理観と使命感、卓越した研究能力を修得し、最先端の医療や創薬研究を主導できる高度先導的薬剤師として、先進医療や高度学術研究・高度医療薬学研究、トランスレーショナルリサーチやレギュラトリーサイエンス、臨床疫学研究、さらには医療行政・薬事行政を指導的な立場で担うことができる薬学研究者や薬剤師の養成を目指す。このプログラムは、本事業の5つの主プログラムの中で、他の4プログラムを開発・実施するための基軸となるものである。

参画大学においては、すでに第2期中期目標期間中に実施した「先導的薬剤師養成に向けた実践的アドバンスト教育プログラムの共同開発」事業ならびに、第3期中期目標期間中に実施した「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」事業において、6年制学部及び4年制大学院博士課程の教育研究プログラムの充実を図っており、その発展的な継続、さらにはこれらを基盤とする新たなプログラムの開発と実施が期待される。

6年制薬学部及び大学院博士課程の教育研究における「高度医療人キャリア形成教育研究推進プログラム」については、国公立大学の優れた物的、人的リソースを十分に活用することによって実施する。本プログラムとしては、学部については、長期課題研究において最先端の研究に主導的に取り組むことにより、研究倫理に基づいた自己規制の中で優れた研究能力の修得を図る高度課題解決型教育プログラムや、高度長期課題研究プログラムが推進すべきプログラムとして挙げられる。大学院博士課程については、高い倫理観と卓越した研究能力を身に着け、独創的な研究により世界をリードできる人材を養成する高度大学院教育研究プログラム、さらにはスーパー薬学博士養成アドバンストプログラムが挙

げられる。一方で、学部あるいは大学院の在学中に、行政機関や関連企業の第一線において実践的で高度なマネジメント能力とリーダーシップ、さらには汎用力の修得を図るアドバンストインターンシッププログラムも有用である。

【2024年（令和6年）度】

1) 学部生、大学院生を対象としたプログラム

<北海道大学>

- 国公立大学高度薬学人材育成ワークショップ **【連携】**
 - ・学部生、大学院生を対象。2024年9月21日（土）第1部 臨床研究&実務実習
第2部 キャリア形成ワークショップ

<東北大学>

- 産学共創大学院プログラム 未来型医療創造卓越大学院
 - ・大学院生を対象。医学系、歯学、薬学、生命科学、情報科学、経済学、文学、教育学、医工学に所属する学生が、未来の医療をより優れたものへと変革する人材の育成を目指し、データ（Data）と技術（Technology）を駆使して未来の社会（Society）の課題解決に取り組み、超高齢社会である東北地方、日本そして世界の医療・福祉の理想を求めて学習できるプログラム。<https://www.fmhc.tohoku.ac.jp/>

<千葉大学>

- 病院実務実習における専門職連携実習（亥鼻IPE・Step5）（平成27年度～）
 - ・学部生を対象。附属病院での病院実務実習のアドバンスト教育として、同時期に臨床実習を行って
る医学部・看護学部学生と病棟での診療参加型専門職連携実習を約3日間行ってる。

<東京大学>

- 多職種連携プログラム
 - ・学部生を対象。薬学部薬学科4年生後期に、医学部医学科および医学部健康総合科学科と合同で、医療現場における多職種連携の基礎となる医療者間でのコミュニケーションや協働の実践について、少人数グループでの討議および発表を通じて経験を深め、スキル習得を目指す実習を行った。
- 多職種連携プログラム
 - ・学部生を対象。薬学部薬学科4年生後期に、本学および近隣私学の薬学生・医学生・看護学生各100余名の合同で、各専門職の役割・専門性を理解し、各専門職の立場で患者および多職種とのコミュニケーションについて学ぶことを目的とし、症例シナリオを題材に課題

を抽出し解決策を立案するグループワークおよび発表による実習を行った。

<富山大学>

○ 就職ガイダンス「自己分析講座」（*）

- ・学部生、大学院生を対象。就職活動に向かうにあたり、どのような企業が自分に向いているのか、また、面接の時に述べる自分の強み等を分析する。

○ 就職ガイダンス「適性検査対策講座」（*）

- ・学部生、大学院生を対象。就職活動開始前に自分の適性を分析する。

○ 薬都とやま未来懇談会（薬学系業界研究会）（*）

- ・学部生、大学院生を対象。進路を考えるためのセミナー。43社が業界や働き方について講演。

○ 就職活動のすすめ方と採用動向（*）

- ・学部生、大学院生を対象。就職情報収集のポイントと採用動向を学ぶ

○ 先輩の就活体験談から学ぶ「誰も教えてくれない」募集要項の見方講座（*）

- ・学部生、大学院生を対象。就職活動開始前に募集要項の見方を学ぶ

○ 就活準備スタートアップ講座（*）

- ・学部生、大学院生を対象。就職活動をするために、4年次において必要な事項について学ぶ

○ 日テレ式、コミュニケーション講座（*）

- ・学部生、大学院生を対象。就職環境・スケジュールの確認、就活に向けての心構え、コミュニケーションを学ぶ

○ 履歴書・エントリーシート作成講座（*）

- ・学部生、大学院生を対象。就職環境・就職活動時に必須である履歴書・エントリーシートの作成方法を学ぶ

○ 就職活動時に必須である面接・グループディスカッション対策講座（*）

- ・学部生、大学院生を対象。就職活動時に必須である面接・グループディスカッションの対策を学ぶ

○ 製薬企業概論（*）

- ・学部生を対象。富山県は、製薬企業が80社ある。研究やMR職以外にも薬剤師が活躍している現場は多いことから、それらについて学ぶ。

○ 「企業薬剤師育成学」（*）

- ・学部生を対象。薬学部薬学科(6年制教育薬学部)必須科目：製薬企業に勤務する薬剤師の体験談や職場の動画をもとに、主な職種と仕事内容、高度な知識・技能、仕事の意義ややりがいを理解し、卒後の将来展望を得ることを目標とする。

○ 企業薬剤師インターシップ（*）

- ・学部生を対象。薬学部薬学科(6年制教育薬学部)自由科目：製薬企業において実地での職業体験を実施し、講義や実習で学修した知識や技能が実社会の諸問題の解決に活かされる現状を認識することによって社会的使命感を高め、卒後の将来展望を得ることを目標とする。

○多職種連携プログラム（*）

- ・学部生を対象。医学部医学科、医学部看護学科、薬学部薬学科の3学科の教員で臨床現場でのヒヤリハットのシナリオを作成し、3学科混成のグループで、どのようにすれば、ミスがおこらなかったのかを各職種の立場から議論をした。いずれの学科も臨床実習直前の学年で構成をした（薬学部・薬学科は4年生後期）

<金沢大学>

○短期留学プログラム

- ・学部生を対象。金沢大学薬学類の学生のための単位認定プログラム。英語力を伸ばし、専攻に関わるグローバルな視野を広げる。金沢大学薬学類の2年次の第2クォーターに実施しており、他の科目の履修に大きな影響を与えず海外研修が可能となっている（本プログラムは単位化されている）。本プログラムの特徴は以下の①-④である。①英語によるコミュニケーション力の醸成、②海外における薬学教育の理解、③英語プレゼンテーションの実践、④異文化体験

<京都大学>

○多職種連携プログラム

- ・学部生を対象。多職種連携医療体験実習・1年次夏季休暇中・薬学部17名、医学部医学科112名、医学部人間健康科学科1名 医療安全学・4年次後期集中・薬学部14名、医学部104名 医学部人間健康科学科22名
1年次には夏季休暇中に医学部の学生と合同で医療現場の見学・体験学習を行った。実習終了後には対面での事後ワークショップを行い、チーム医療の重要性を学習した。4年次には医学部の学生と合同で、医療者間コミュニケーション、患者とのコミュニケーション、臨床倫理、医療事故の分析についてスモールグループディスカッションを行うことで、医療人として必要な医療安全に関する理解・関心を深めた。

<岡山大学>

○2024年度シン・全国学生ワークショップ

- ・学部生、大学院生を対象。「研究マインド・能力を持った医療人材を育成する6年制薬学教育を考える」をテーマとして、博士進学を目指す学生を、高度先導的薬剤師養成プログラム運営委員会より推薦する形で参加者を決定した。2024年8月24日～25日に昭和大学富士吉田キャンパスで開催され、本学からは、薬学科4年生1名が参加した。各大学から59名が参加し、日本薬学会薬学教育委員や他大学の学生らと意見交換を行った。薬剤師（薬学部卒業生）に必要な研究マインド・能力や研究マインド・能力を持った薬剤師を育成する理想的な6年制薬学部のカリキュラムや薬剤師のキャリア・生涯研鑽を考えるグループワークでは、自分たちで薬剤師の職能を示すことが必要であり、そのために学生のうちに教育について考えることができた本ワークショップの参加意義が極めて高いことが報告された。

○国立・企業研究所見学研修

- ・国立医薬品衛生研究所および株式会社島津製作所の研究所を現地で見学する事業であり、

今年度新規に行った。学内で公募を行い、3～5年生の5名と教員1名で参加した。2024年2月12日に株式会社島津製作所のShimadzu Tokyo Innovation Plaza、13日に国立医薬品衛生研究所を見学した。島津製作所では、グローバルな事業展開を行うための研究戦略や行政やベンチャー企業との共同による研究内容を紹介いただき、さらにそのような事業展開に必要な設備や機器等の実物を紹介いただいた。国立衛生研究所では、岡山大学との連携大学院や各部門で行われている政策として進められる事業について説明いただき、研究室内の設備や環境なども見学した。参加者は、大学との環境や研究内容の違いを強く認識し、現在の学修内容が様々な研究の基盤となることや国立の研究所と企業の研究所の研究内容の違いや大学との違いなどを実感するとともに、大学院での研究力の醸成が様々なキャリアに活かされることを理解できたと報告した。

○ 令和6年度国公立大学薬学人材育成ワークショップ 【連携】

・学部生、大学院生を対象。大阪大学主催のプログラムであり、今年度は、2024年9月21日に大阪大学大学院薬学研究科においてハイブリッド形式で行われた。本学からは、学部生1名、大学院生1名、事業運営委員会委員の教員1名が参加した。第一部は臨床研究と実務実習をテーマとして行われた。薬剤師の偏在解消に向けた講演と各大学で自主的に実施されている実務実習の新しい取り組みについて紹介された。また、第二部のキャリア形成ワークショップでは、国立大学出身の薬学博士として大学教員、PMDA、行政、ベンチャー企業、大学病院薬剤師などの立場から講演され、多様な活躍のフィールドを紹介された。

○ 厚生労働省・PMDA見学会 【連携】

・学部生、大学院生を対象。大阪大学主催のプログラムであり、今年度は、2025年2月27日に厚生労働省説明会・見学会、2月28日にPMDA見学会・座談会が行われた。本学部内で公募し、対面（現地）で3名（博士後期課程1名、学部生2名）、オンラインで3名（学部生）が参加した。参加者は、座談会での情報が印象的であると報告しており、働く環境や勤務制度の内容が一般企業と大差がない点や業務のカウンターパートとして各省庁の担当者や国会議員など、省庁に勤務する特有の業務環境についても知ることができ、未知の職業であった中央行政という職への理解を得ることができたと報告している。

○ 国立・企業研究所見学研修

・学部生を対象。国立医薬品衛生研究所および株式会社島津製作所の研究所を現地で見学する事業であり、今年度新規に行った。学内で公募を行い、3～5年生の5名と教員1名で参加した。2024年2月12日に株式会社島津製作所のShimadzu Tokyo Innovation Plaza、13日に国立医薬品衛生研究所を見学した。島津製作所では、グローバルな事業展開を行うための研究戦略や行政やベンチャー企業との共同による研究内容を紹介いただき、さらにそのような事業展開に必要な設備や機器等の実物を紹介いただいた。国立衛生研究所では、岡山大学との連携大学院や各部門で行われている政策として進められる事業について説明いただき、研究室内の設備や環境なども見学した。参加者は、大学との環境や研究内容の違いを強く認識し、現在の学修内容が様々な研究の基盤となることや国立の研究所と企業の研究所の研究内容の違いや大学との違いなどを実感するとともに、大学院での研究力の醸成が様々なキャリアに活かされることを理解できたと報告した。

<広島大学>

○ 患者志向型合宿勉強会

・学部生を対象。医療人としての倫理観を醸成するために薬害被害者1名を招聘し、学部3年生を対象に勉強会を開催した。※令和7年度実施。

○ キャリアセミナー

・学部生、大学院生を対象。薬学出身者の多様な進路を紹介するためオンライン形式で、企業、行政、病院、薬局など幅広い分野の方の講演会、企業ブースや展示、就職相談会、情報交換会を2日間開催した。※令和7年度実施。

○ 手術室見学実習

・学部生を対象。手術室における薬剤師業務を知るために、麻酔科教授ならびに手術室担当薬剤師による講義を受けた後に、実際に手術室に入り、その業務を見学した。※令和7年度実施。

○ 精神科外来実習

・学部生を対象。医師による診断から処方箋作成への流れを知るために、午前中に精神科外来診療室での診療に陪席し、必要に応じて医師からの指示による説明書の作成と患者への説明を行う。※令和7年度実施。午後は、入院病棟での担当薬剤師につき添い、入院時の服薬指導などの見学と実習を行う予定である。

○ 多職種連携教育プログラム

・低学年（薬学科1年生）と高学年（薬学科6年生）において医学部、歯学部、薬学部合同での多職種連携教育を実施した。低学年では災害医療など3つのテーマにつきチームで議論した。高学年では、学科によって学年は異なるが、実習後の学生が集い、2つのシナリオについてチームで議論し、医療チームとして模擬患者への説明を行なった。※令和7年度実施。

○ 広島大学薬学部高校生訪問実験

・科学や薬学での研究に興味を持って貰うために、広島市及び島根県の高校生を広島大学薬学部へ招待し、8つの研究室にて2日間の実験を行う予定である。

<徳島大学>

○ 第12回学部連携PBLチュートリアル

・高学年の薬学部、医学部、歯学部の学生を対象として実施した。チーム医療の実践に必要な能力・資質を身につけさせることを目的として、患者シナリオをもとにグループ討議と自己学習を行いながら問題点を抽出し、プロブレムマッピング方式を用いて全人的な視点から問題点の解決法を立案した。

○ 2024年度 演習3（症例解析総合演習）

・薬学部6年生を対象として実施した。薬剤師に必要とされる基本的な臨床思考プロセスの修得を目的として、薬学部で履修してきたコアカリキュラムおよび臨床実務実習での知識・経験を統合し、模擬症例で設定された課題を薬学的視点から検討を行った。

<九州大学>

○ 多職種連携プログラム

- ・学部生を対象。医学部医学科・保健学科、歯学部との合同演習として「臨床倫理」「インフォームドコンセント」「チーム医療演習」を実施し、ロールプレイやSGDなどを通じて、問題解決能力の醸成のみならず、異職種における専門性の相互理解や他のコメディカルとのコミュニケーション能力の向上を図っている。

○ 国公立大学人材育成ワークショップ 【連携】

- ・学部生、大学院生を対象。大阪大学主催のプログラムであり、本学からは学部生2名、教員3名が参加した。

○ 厚生労働省PMDA見学会 【連携】

- ・学部生、大学院生を対象。大阪大学主催のプログラムであり、本学からは学部生4名が参加した。

<長崎大学>

○ 長崎大学育薬研究教育センター若手シンポジウム

- ・12名の学部学生及び2名の大学院生が研究発表を行い、その中から4名に優秀発表賞を授与した。学生の研究発表後には、米国の薬学部教員として活躍している卒業生による講演と日本トップクラスのアカデミア研究者による特別講演を行なった。本シンポジウムには、学部生47名、大学院生10名が参加し、活発な質疑応答を行った。2024年10月3日開催

<熊本大学>

○ メディポリス国際陽子線治療センター研修 【連携】

- ・学部生、大学院生を対象。薬剤師の観点から最新のがん治療の動向・現状を把握し、個々の患者に最適ながん治療を実施するための知識を習得することを目的とし、がん治療における最先端の陽子線治療を実施している「メディポリス国際陽子線治療センター」および「てらわき薬局城西」のご協力のもと、対面・遠隔での特別講演会・施設見学、先輩薬剤師のキャリアパス・意見交換会などの研修を実施した。

○ 医学部医学科臨床実習（クリクラ）と連携した参加型実務実習

- ・学部生を対象。病院実務実習の一環として、6内科診療科（腎臓内科、循環器内科、呼吸器内科、糖尿病・代謝・内分泌内科、消化器内科、血液・膠原病内科）のうち1～2診療科の医学科臨床実習に医学部生と一緒に参加し（合計3週間／学生）、その他、中央検査部での検査実施や看護部での病棟看護研修を（各1日／学生）、熊本大学病院の薬剤部と連携して実施した（平成22年度から今年で15回目）

○ リーダーシップを学ぶ研修

- ・大学院生を対象。外部講師を招聘し、キャリア形成や研究・ビジネス・社会貢献に必要なセルフリーダーシップ、チームリーダーシップ、グローバルリーダーシップを学び、実践的スキルを習得する研修を実施した。

<静岡県立大学>

○ 多職種連携演習（IPE教育）

- ・静岡県立総合病院と協力し、薬学部・食品栄養科学部が連携した多職種連携演習を

行った。

○ 静岡救命連携演習

・BLSプロバイダーコースを学内で開催した。また、一次救命処置実習を必修科目として実施した。

○ 静岡救命連携演習

・全国禁煙アドバイザー育成講習会を学内で開催した。学生は、禁煙指導に必要な知識を習得し、日本禁煙科学会認定禁煙支援士（初級）の資格を取得した。必修科目として実施した。

○ AED講習会

・早期体験学習として、薬学部1年生を対象にAED講習会を行った。静岡救命連携演習でBLSの資格を取得した教員が指導した。

○ 大学院特別講義

・大学院生を対象に、学外の著名な研究者を招聘し、研究の最前線を紹介する講義を実施した。

○ 薬学講座

・学部生（1～5年生必修）及び大学院生を対象に、薬害被害者の方と創薬研究で顕著な成果を挙げた研究者をそれぞれ招聘し、体験談を交えた講演会をオンラインで実施した。

○ 月例薬学セミナー

・学部生及び大学院生を対象に、学外の著名な研究者を招聘し、研究の最前線を紹介する講義を実施した。

<名古屋市立大学>

○ 東海薬剤師生涯学習センター講座（公立大学連携薬剤師生涯学習講座） **【連携】**

・2015年度より静岡県立大学と共同で大学が発進する薬剤師職能開発支援向けの研修に本学学部学生も参加（薬剤師受講は有料、学生は無料）。全8回の研修で、4回は静岡県立大学とオンラインシステムを利用した連携講義、4回は本学独自の「薬剤師レベルアップ研修」として3時間の実習・演習タイプの研修を実施した。

2024年度は大学から発信する研修として、講義は「臨床現場に必要な薬学最新基礎知識」を大学教員・大学病院薬剤師が地域薬剤師に向けて発信することに特化したもので、実習・演習は、薬学部3年生の授業の一環として基礎薬学演習に薬剤師と一緒に演習を行うプログラムを3回実施した（オンラインシステムを活用したオンラインハイブリッド研修）。

また、1回の薬剤師スキルアップ研修ではオンラインハイブリッド研修による患者に優しい製剤を考える講義及び演習を行った。

○ 社会のニーズに対応できる新しい医療人教育の開発と実施

・1) 手話による服薬指導研修 90分×2回、4年生薬学科56名

薬剤師で手話通訳の資格をもつ外部講師による演習。手話を学ぶという興味から、障がいをもつ方達とのコミュニケーションについて考えることを主眼においた研修。声の出せない耳が聞こえないというようななかなか実感として理解できない障がい者の感覚を演習を通して学び取る。本研修では意思を伝達するコミュニケーションの本質を考えさせるとともに、医療人としての心構えを学ばせることに重点をおいている。

2) 精神科専門病院の薬剤師、臨床心理士による特別演習 90分、4年生薬学科56名

精神科専門病院の薬剤師と臨床心理士を講師として実務実習で精神科領域での薬物療法に臨むための基礎講義と演習を実施。

- (1) 精神科の薬物療法の特徴と考え方について講義と演習（講師 薬剤師）
- (2) 薬物療法以外の心理的手法を用いた最新治療法の紹介（講師 公認心理師）

3) 高齢者医療におけるポリファーマシー改善を目的とした外来講師授業 90分×2回、4年生薬学科56名国立長寿医療研究センターの薬剤師を講師として迎え、薬剤師生涯学習の内容を薬学生向けにアレンジした内容で、多数の薬を服用している高齢者の薬物療法についての考え方を事例の演習と講義で研修を実施した。まず、10種類以上の処方薬を服用している事例をSGDにてグループ討論して、処方提案をロールプレイ。その後講師の評価と解説行なって、薬剤師が高齢者のポリファーマシー改善に対応する考え方（課題解決の道筋）を学習した。

4) 薬局薬剤師と連携した薬剤師実務研修 90分×16回、4年生薬学科56名
改訂コアカリでは、実践的な臨床能力を身につけることが規定されているが、大学教員からの講義だけでは、実際の医療現場、特に薬局での継続的な患者指導やセルフメディケーションの指導に対応することは難しい。本学では薬局薬剤師、特にドラッグストアで勤務する薬剤師と連携して、新しい研修開発を試みている。

◎セルフメディケーション演習

前半：実際のドラッグストアの事例をもとに、風邪薬と胃腸薬の選択を行い来局者にその理由とともに説明を行う。SGDを行った後、その成果を模擬患者に実際に相談を受ける形で成果を披露し、薬局薬剤師からフィードバックを受ける。

後半：併用薬がある、病院の薬は飲みたくない、妊娠しているなど薬局現場で実際に遭遇する事例について、今度は模擬患者から聞き取る情報だけでどのように対応すべきかをSGDで検討し、その対応方法について全員で検討し、薬局薬剤師とロールプレイを行ってフィードバックを受ける。本研修は、実際にドラッグストア等で販売や健康相談に携わっているベテラン薬剤師が講師（のべ8名ほど）としてSGDから対応法の評価まで関わって行うもので来局者の対応についても詳細な実践的な部分まで指導を行ってもらっている。

◎薬局での地域住民健康サポート業務体験研修

薬局で実施できる住民健康サポートのための各種測定を実際に体験する研修。測定項目：血糖、HbA1c、血中脂質、BMI、体組成、血圧、体温、握力、ロコモ診断など薬局店頭で地域住民の健康サポートに活かすことのできる業務を、サポートを受ける側と、指導する側の2方向から体験する。この体験は生活習慣チェックによる薬局の健康相談を体験させる研修となっている。

◎患者情報から医師へのトレーシングレポート作成演習

薬局薬剤師から提示される実際に課題のあった症例を検討する。薬歴情報、患者からの聞き取り情報等から、学生達がSGDを行い、分析した結果を発表。その結果をトレーシングレポートに作成し、医師に送付する。さらに継続して来店した際の情報から、患者の変化をアセスメントして、必要な服薬指導ならびに処方提案などの業務の選択をさらに行なって、模擬医師に報告あるいは疑義照会等のロールプレイを実施し、最終的な評価を薬局薬剤師から受ける。

5) オンライン服薬指導演習 90分×2回、4年生薬学科56名

ベテラン模擬患者の方に協力いただき、「患者・来局者の生活背景」を問診で確認し、薬物療法の指導に活用していくコミュニケーション演習として、双方向でのオンライン服薬指導演習を実施した。学生達が予めSGDで症例検討した課題で作成した服薬情報提供書などを活用して、模擬患者からどのように状況を遠隔で問診し、それを健康相談や受診勧奨、服薬指導等に活かすかを学習する。この学習は、オンライン服薬指導の教材コンテンツの開発にもつながっている。

6) 新しい臨床シミュレーターを用いた救急医療参画演習 90分×2回、4年生薬学科56名
ICUや救命救急領域での業務経験を有する臨床系教員が中心となって、新規に購入した継続的な薬物治療のシミュレーションが可能なシミュレーターを使用し、救急外来に搬入された患者への対応を3種類の症例を使って薬剤師が何をどのように判断し、多職種と連携すればよいかを経時的にグループでSGDを行いながら演習する。血圧や心電図、SpO2の測定なども取り入れ、患者に何が起きているかを類推しながら、原因をあげ、その解決策の案を短時間で考案する体験を行うことで、救急医療での薬剤師の貢献や多職種連携の重要性を学ぶ。

7) 注射実技のシミュレーション、感染症流行時の検査シミュレーション実習 90分×4回、4年生薬学科56名

名市大病院看護師8名を講師に招き、注射（筋注、皮下注、点滴静注）および輸液ポンプの実技と患者対応、医療安全についての講義と実技練習をシミュレーター等を用いて行った。新型コロナウイルス感染症の流行を受け、薬剤師に感染症対策で何が可能か、何が重要かを考える授業として、病院や薬局でのワクチン接種のシミュレーションも実施。また、鼻腔ぬぐいのシミュレーターも使用して、薬局店頭でのPCR検査を想定した実技研修も実施した。多職種連携の中での医療安全の考え方を学ぶとともに、注射や検査時の医療の共通言語も確認することができた。

8) 経腸栄養シミュレーターを利用した経腸栄養剤と簡易懸濁法の体験実習 90分×2回、4年生薬学科56名

在宅医療で経腸や経鼻での薬物療法に対応するため、簡易懸濁法に関する講義及びシミュレーターを利用し、実際のカテーテルの挿入から処方薬の投与までをシミュレートして学ぶ研修を実施。簡易懸濁法の実践、チューブの取扱いや医薬品の粉碎の影響などを、教科書の知識を実物で確認することで理解を深め、在宅医療での実践的臨床能力を高める実習を行った。また、点滴ラインやカテーテルへの薬剤の吸着・収着について講義により知識を深めた。

<和歌山県立医科大学>

○ 特別実習（入門）

・学部3年生の前期配当科目である「特別実習（入門）」において、キャリア形成教育研究推進プログラムの一環として、後期からの卒業研究（特別実習）の開始に向けて、高度医療人としてのキャリア形成に関する講義、各研究室の研究内容の紹介、学生が選択する3つ以上の研究室での研究体験を実施している。

○ 特別講義

・学部生の配当科目において、キャリア形成教育研究推進プログラムの一環として、厚労省、PMDA、科警研、農水省等の公的機関の国家公務員、製薬会社・食品会社の研究開発担当者、病院・薬局で先進医療・地域医療を担う薬剤師、全国薬害被害者団体連絡協議会世話人、知的財産の専門家等を講師とする特別講義を実施している。2024年度は57回実施した。

<山口東京理科大学>

○ 現役薬剤師を招聘し実践的薬学臨床実務実習

・学部生を対象。薬学臨床事前実習は患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、病院実務実習・薬局実務実習に先立って、大学内で薬剤師業務の基本的な業務である調剤をはじめ、服薬指導、患者対応、医薬品の適正管理、薬物治療法の実践などの薬剤師業務に必要な基本的知識、技能、態度を修得する実習であるが、この実習に現役の薬剤師を7名招聘し、学内の教員では得られない、実際の現場で起こる問題や課題をどう解決できるかの実践的な実習を行った。

○ 高度先進的薬剤師育成研究助成事業

・学部生を対象。「卒業研究」では薬学・医療の進歩と改善に資するため、教育を遂行する意欲と問題発見・解決能力を身につけることを目標としており、同研究に対して「高度先導的薬剤師の育成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンス教育研究プログラムの共同開発」の趣旨に沿って、本学薬学部の学生が研究を推進していく上で必要な研究経費を助成した。なお、20件が本研究助成を受け、卒業研究を遂行し、年度末に報告書の作成を行った。

○ アクティブラーニング方式による総合医療薬学プログラムの開発

・3～4年次に配置した必修科目「総合医療薬学1～7」におけるSGD(Small Group Discussion)を中心とするアクティブラーニングを取り入れた教育システムの開発。代表的8疾患に関係したシナリオをもとにした文献調査、グループディスカッションから、発表資料作成、成果報告、質疑応答までの一連を繰り返し行なうことにより、疾病と薬の理解だけでなく、思考的問題解決能力、コミュニケーション能力の醸成につながることが期待される。同授業の報告書は継続的に作成し広く公開している。

<大阪大学>

○ 国公立大学高度薬学人材育成ワークショップ 【連携】

・2024年9月21日（土）ハイブリッド開催：第1部では「臨床研究と実務実習について」、第2部で「キャリアアップワークショップ」とし、現在国公立大学の教育研究における大きな課題である「4年制博士課程の在り方」を取り上げた。対面60名（学生27名、教員33名）オンライン36名（学生12名、教員24名）合計96名の学生・教員が参加した。

○ 厚生労働省・PMDA説明会 【連携】

・2025年2月27日28日厚生労働省・PMDAの説明会（ハイブリッド開催）17大学から対面（39名）、オンライン（39名）の学生(学部生、大学院生含む)が参加。